

「東京都立大学次期図書館システム設計構築委託（長期継続契約）」 落札者決定基準

「東京都立大学次期図書館システム設計構築委託（長期継続契約）」に係る落札者決定基準については、次のとおりとする。

1 基本的な考え方

落札者の決定にあたっては、最適な事業者を選定するため、技術提案書の内容及び技術提案書の提出期日後に必要な応じて実施するヒアリングによる評価である「技術点」に入札価格の評価である「価格点」を加算する総合評価落札方式を採用し、技術点及び価格点の合計点が最も高い入札者を落札者とする。

(1) 技術点

「東京都立大学次期図書館システム設計構築委託（長期継続契約）提案評価表」（添付資料）の各評価項目に基づき提案内容の評価し、「技術点」を与える。技術点の満点は 220 点とする。

(2) 価格点

本法人が定める入札書の様式に従い、入札書には入札価格を記載すること。入札価格について後に示す計算式に基づき「価格点」を与える。価格点の満点は 110 点とする。

(3) 総合評価の方法及び落札者の決定方法

上記（1）及び（2）で評価した「技術点」及び「価格点」の合計点数（以下「総合評価点」という。）が最も高いものを落札者とする。

ただし、入札価格が予定価格の制限の範囲内であること。

(4) 有効数字

「技術点」及び「価格点」の算出にあたっては、小数点以下 1 桁までを有効数字として、小数点以下 2 桁目で四捨五入する。

(5) 総合評価点数が最も高い者が 2 以上あるときの対応

当該入札者にくじを引かせ、落札者を決定する。この場合においては、当該入札者のうちくじを引かないものがあるときは、これに代えて当該入札事務に関係のない本法人職員にくじを引かせるものとする。

(6) 欠格事由

以下の条件に該当する場合は「欠格」とする。この場合、当該入札者の技術点及び価格点は考慮せず、落札者とししない。

ア 技術提案書の提出方法、提出先、提出期限に適合しないもの。

イ 技術提案書作成要領に指定する提案書の作成様式及び記載上の留意事項に示された条件に適合しない場合。

- ウ 技術提案書に記載すべき事項以外の内容が記載されている場合。
- エ 許容された表現方法以外の表現方法が用いられている場合。
- オ 虚偽または法令に違反する内容が記載されている場合。
- カ 「東京都立大学次期図書館システム設計構築委託（長期継続契約）提案評価表」の評価項目のうち、No.1（2）、No.6（2）及び No.7（1）を除くいずれかの項目において、全採点者の平均点で「0点」が付いている場合。
- キ 技術提案書の提出期日後に実施するヒアリングへの出席要請に対し、応じなかった場合。
- ク 入札日までの間に、本総合評価落札方式の入札参加資格を失った場合。

(7) 審査機関

本委託業務の技術的な審査については東京都立大学次期図書館システム設計構築委託（長期継続契約）技術審査委員会（以下「技術審査委員会」という。）において実施する。

2 技術点について

(1) 技術点

技術点は、「東京都立大学次期図書館システム設計構築委託（長期継続契約）提案評価表」に記載する評価基準に基づき、技術審査委員会が総合評価のための技術提案書及び提案内容説明会での内容を審査し、次により算出する。

ア 配分の考え方

各評価項目に配分する得点は次のように設定する。

No.	評価項目	配点	割合（少数第二位を四捨五入）
1	本学が次期図書館システムにより達する目的などに対する理解度	45	20.5%
2	機能要件の理解度	50	22.7%
3	非機能要件の理解度	20	9.1%
4	システムの実現方法	30	13.6%
5	組織対応力	45	20.5%
6	運用に係るコスト評価	25	11.4%
7	政策的評価項目	5	2.3%
	合計	220	100%

イ 各評価項目の評価点

技術提案書の記述内容により、0点から5点までの6段階評価とする。6段階評価の目安は、次のとおりとし、本学で想定している一般的な提案は3点とする。

【評価の目安】

非常に優れている	5点
優れている	4点
普通（本学で想定する一般的な提案）	3点
劣っている	2点
非常に劣っている	1点
記述がない、本学の要求に適合しない。	0点

ウ 各評価項目の重み

重要度に応じて、「1」から「5」までの重みを評価項目ごとに設定する。

※ただし、「東京都立大学次期図書館システム設計構築委託（長期継続契約）提案評価表」No.6の（2）の評価点については、上記イ及びウによらず、以下の方法により決定することとする。

○得点 = (①) 本評価の上限額 (20点) - (②) 【(5年間の合計運用経費) / (同経費の法人の想定額) × 本評価の上限額 (20点)】

なお、得た値が負の場合は0点とし、上限は20点とする。

エ 評価項目点

評価項目ごとの評価点に各評価項目の重みを乗じて得た点を評価項目点とする。

オ 技術点に係る得点

技術審査委員会の各委員の合計点の平均を当該入札者の技術点に係る得点とする。

3 価格点について

(1) 価格点の点数化の方法については、次に示す方法による。

「価格点 = 満点の価格点 - (入札価格 / 予定基準価格) × 満点の価格点」

(2) 技術点及び価格点は、いずれも小数点以下1桁までの数値とし、少数点以下2桁目は四捨五入する。

以上

○東京都立大学次期図書館システム設計構築委託（長期継続契約）提案評価表

No.	評価項目	提案記述内容	評価基準	重み	上限配点
I 技術点					
1	本学が次期図書館システムにより達する目的などに対する理解度				45
(1)	提案にあたっての基本的な考え方	次期システムにより本学が達成しようとしている目的、目標を踏まえ、貴社からの提案内容全体に関する実施方針や、貴社における過去実績を踏まえた実施体制をきき具体的な提案をお示し下さい。	①適切な分量で分かりやすく記載されているか。 ②仕様書に記載の目的などに基づき、本委託の主旨に合致した提案内容となっているか。 ③本学を取り巻く状況や現システムの課題を踏まえた提案内容となっているか。 ④前提事項に則り、かつ、次期システムの設計方針に沿った提案内容となっているか。 ⑤実績があるチームが担当することで構築を実現する提案内容となっているか。 （過去実績や事例については証明する書類の写しにより確認。）	4	20
(2)	追加提案事項	本件と類似した構築経験などを踏まえ、本学が仕様書中に提示した内容に限らず、追加可能な項目がありましたら、その内容、特徴、本学にとってのメリットをお示しください。	①追加提案があるか（ある場合のみ加点。）。 ②本学にとって有効な追加提案となっているか。 ③本学と同規模以上の大学における類似の開発経験などを踏まえ、実現性が高い提案となっているか。	3	15
(3)	制約事項、特記事項	本件実施にあたり、本学及び関連組織に対する制約事項、特記事項などがありましたらお示しください。	①本学や関連組織の運営にあたっての著しい制約、重大な影響の発生や不利な制約事項はないか。 ②本学や関連組織に対する過度な期待や要望はないか。	2	10
2	機能要件の理解度				50
(1)	機能要件全体	次期システムの機能要件を実現するために貴社はどのような方法を採用するかについて具体的にお示しください。 また、ユーザインターフェースと操作性の観点で考慮すべき点や具体的な対策、工夫できる点などについて、また、システムインターフェースの観点で連携先他システムへの影響を極小化するための、貴社の考え方を示してください。	①システム機能要件を実現するための具体的な提案がなされているか。留意点や工夫できる点は具体的かつ妥当であり、実現性が高いものか。 ②ユーザインターフェースはユニバーサルデザイン或いはバリアフリーの観点で考慮されているか。使いやすさ、操作の分かりやすさ、ミスを防ぐための工夫などが考慮された提案となっているか。 ③本学や関連組織が運用保守する他の関連システム連携における本学の調整、作業負担などを考慮した提案となっているか。システムのカスタマイズを必要最小限にするなど、開発リスクを低減する内容となっているか。	3	15
(2)	機能要件（個別サービス、共通サービス）	現システムの課題に鑑みて、特に重視したいと考えている以下の各サービスについて、特筆すべき具体的な提案、工夫点などについて実現性の観点で貴社の過去実績を踏まえ分かりやすくお示しください。 ・業務端末 ・通信 ・サーバー ・認証方法	①委託者が支給するパソコンを利用する職員が、そのパソコンを業務端末としてシステムの全機能を無理なく利用することができるような提案となっているか。また、委託業務従事者や臨時職員が作業するための端末や窓口で利用する端末については受託者が調達する内容となっているか。 ②学外からも学内同様にシステムの全機能を利用することができる仕組みが提案されているか。その際、安全で安定的な通信を担保できる提案になっているか。 ③サービスの継続性とサーバー監視の極小化を目指した提案となっているか。 ④Microsoft office365を利用する職員はActiveDirectory認証で図書館システムを利用することができるなど、ID登録の簡素化と効率化は図られた提案となっているか。 ⑤①から④について、現行システムを踏襲した上での提案となっているか。 ⑥①から④の他に具体的な提案がなされているか。	7	35
3	非機能要件の理解度				20
(1)	非機能要件（稼働時間、性能、同時アクセス数、信頼性、拡張性、互換性）	次期システムが求める非機能要件を実現するために貴社はどのような方法を採用するのかについて具体的にお示しください。 また、留意すべき点や具体的な対策、工夫できる点などについて実現性の観点で貴社の実績に照らしてお示しください。	①システム非機能要件を実現するための具体的な提案がなされているか。 ②留意点や工夫ができる点は具体的かつ妥当であり、実現性が高いものか。	2	10
(2)	情報セキュリティ	本学の情報セキュリティポリシーに基づき、ウィルス対策、不正アクセス防止、個人情報の取扱いの観点で考慮すべき点や具体的な対策、工夫できる点などについて、貴社の考え方を示してください。	・情報セキュリティに関する具体的な提案がなされているか。留意点や工夫ができる点は具体的かつ妥当であり、実現性が高いものか。	2	10
4	システムの実現方法				30
(1)	プロジェクト管理について	プロジェクト計画（プロジェクト体制、工程、想定されるスケジュールなど）とプロジェクト管理運営方針（リスク管理、課題管理、品質管理、変更管理、コミュニケーション管理など）をお示しください。また、貴社のみならず本学や関連事業者が実施する分があれば、お示しください。	①プロジェクト計画、プロジェクト管理運営の考え方、実施内容や留意点が明確に示されており、内容が妥当か。 ②工程、想定されるスケジュールは本学及び関連事業者が確認、調整、検討などを行うことを考慮し、無理のないものとなっているか。 ③確認・検討などを行うタイミングは適切であるか。	1	5
(2)	システム構成について	仕様書及び機能仕様書などの記載内容を踏まえ、実現に最適だと考えるシステム構成（クラウドかデータセンター利用、ハードウェア、ソフトウェア、ネットワークなど）について具体的にお示しください。	①オンプレミスでなく、クラウドやデータセンターの利用となっているか。 ②クラウドは国内設置で、公的証明を取得しているか。 ③構成は現実的かつ妥当で、本学の負担が配慮された内容となっているか。	1	5
(3)	テストについて	テスト方針（各テストの定義、目的、範囲、内容、確認方法、想定スケジュール、本学への報告方法、本学側での実施内容など）についてお示しください。また、それに伴う本学と受託者との役割分担や作業割合について貴社の実績に照らしてお示しください。	①本格稼働時期を踏まえた現実的なテスト方針が提案されているか。 ②必要な検証が網羅される提案となっているか。 ③内容は現実的かつ妥当か。本学側に過重な労力が生じない作業内容になっているか。	1	5

○東京都立大学次期図書館システム設計構築委託（長期継続契約）提案評価表

No.	評価項目	提案記述内容	評価基準	重み	上限配点
I 技術点					
(4)	移行について	現行システムから本システムへの移行にあたって移行方針（移行方式、範囲、内容、確認方法、制約、想定スケジュール、本格稼働前と本格稼働直後のサポート体制、利用者向け講習会及び本学管理者向け講習会の実施、本学側での実施内容など）について貴社の実績に照らしてお示しください。	①本格稼働時期を踏まえ、リハーサルを始めとした確実かつ正確な移行の提案がなされているか。 ②本格稼働前と本格稼働直後のサポート体制は明確になっているか、或いはその検討時期を明確にしているか。 ③内容は現実的かつ妥当か。本学側に過重な労力が生じない作業内容になっているか。 ④利用者、管理者目録での提案がなされているか。 ⑤講習会の内容は現実的かつ妥当か。本学側に過重な労力が生じない作業内容になっているか。	1	5
(5)	稼働後のフォローについて	本番稼働後のシステム利用者や管理者に対する支援体制・内容について提案してください。	①本番稼働後のシステム利用者や管理者に対するサービス提供事業者のコールセンター設置等の支援体制・内容について、提案事項に係る理由や根拠が具体的に記載されているか。 ②本番稼働後の支援体制や前提条件が具体的に記載されており、実現性があると判断できるか。 ③また、本番稼働後に発生すると想定される問題点とその解決策が検討されており、解決策が稼働後フォローを行う上で有益であり実現性があると判断できるか。	1	5
(6)	保守運用について	本格稼働後の保守運用について構築仕様書に記載した「保守運用要件」を実現するために貴社が想定している保守運用方針についてお示しください。また、記載の事項以外に必要なと考える利用者支援や業務を効率化するための対策などがあれば貴社の実績に照らして提案してください。	①平常時のみならず、緊急時においても円滑な運用を見据えた提案となっているか。 ②本学からの照会、調査依頼、利用者支援に対する体制や手順などに関する考え方が示されているか。 ③特に、年度更新などの現状の課題を解消できる提案となっているか。 ④内容は現実的かつ妥当か。本学側に過重な労力が生じない作業内容になっているか。 ⑤現システムが停止するまでの並行稼働期間において上記の実現性を確認する計画となっているか。	1	5
5	組織的対応力				45
(1)	会社としての評価：直近の図書館システム開発実績	過去3年間に於いて複数の拠点を持つ総合大学での、本件と同様あるいは類似した図書館システム導入或いは受託した実績があれば導入有無、事例などを簡潔にお示しください。	①過去3年以内に大学への導入事例があるか。 ②ある場合、複数の拠点を持つ総合大学か。 ③国立や私立ではなく公立大学か。 （導入或いは受託した実績を証明する書類の写しにより確認。）	3	15
(2)	会社としての評価：過去実績の規模及び内容	本学の規模（学生1万人、常勤教員6百人）や今回の構築内容に照らして、同規模以上の他大学へ認証やメールといった全学的に資する図書館システムの導入或いは受託した実績があれば導入有無、構築内容などを簡潔にお示しください。	①同規模（学生数は1万人、常勤教員数は6百人）以上の大学への導入或いは受託実績があるか。 常勤教員数は6百人以上か。 ②認証やメールといった全学的に資する図書館システムか。 ③単純更改や機器更新ではなく、再構築を伴う大規模な図書館システム開発か。 （導入或いは受託した実績を証明する書類の写しにより確認。）	2	10
(3)	会社としての評価：業務内容に係る第三者評価など	本件と同様・類似あるいは関連した図書館システムの設計・開発・運用・保守業務を始めとした貴社の企業活動に関して第三者機関からの貴社に対する評価・表彰歴や貴社の業務品質の高さを示す実績、業務品質の確保などに資する取組など、貴社としての状況をお示し下さい。	①第三者評価機関による評価、表彰歴があるか。 ②業務品質の高さを示す実績があるか。 ③業務品質の確保に資する取組を行っているか。	2	10
(4)	会社としての評価：主要メディアに取り上げられた事例など	本件と同様・類似あるいは関連した図書館システムの設計・開発・運用・保守業務を始めとした貴社の企業活動に関して主要メディアによって取り上げられた先進的な取組などの貴社としてアピールポイントがあればお示し下さい。また、重大なセキュリティインシデントやシステム障害、訴訟などの発生有無についてお示し下さい。	①先進的な取組として取り上げられた事例があるか。 ②情報流出などの重大なインシデントの発生がないか。 ③大規模システム障害や訴訟事例などの発生がないか。	2	10
6	運用に係るコスト評価				25
(1)	運用コストの抑制方法	運用経費について積算根拠や方法などを明確にしてください。運用経費の低減について提案をしてください。運用開始後に想定される追加費用について記載してください。	①運用経費（サービス利用料、データ登録支援、設定変更対応等）について明細、根拠、積算方法が明確に記載されているか。 ②運用経費の低減事項について、具体的な提案がされているか。 ③運用開始後に保有データを拡張した場合の追加費用について記載されているか。	1	5
(2)	5年間（令和5年度～10年度）の合計経費評価	運用経費について、法人が想定する範囲に収める技術力を持つ提案であること。	・本項目に係る点数については他の項目のように「東京都立大学次期図書館システム設計構築委託（長期継続契約）」落札者決定基準の2（1）イ及びウによらず、以下の方法により決定する（※）。 「得点＝（①）本評価の上限額〈20点〉－（②）【（5年間の合計運用経費）／（同経費の法人の想定額）×本評価の上限額〈20点〉】」 なお、上記の方法で得た値が負の場合は0点とし、上限は20点とする。	※	20
7	政策的評価項目				5
(1)	会社としての評価：障害者雇用率（障害者雇用促進法・障害者優先調達推進法関係）	個別法により公共調達の落札者決定過程で考慮することが要請される項目につき、貴社としての取組状況をお示し下さい。	・公共職業安定所へ提出した障害者雇用状況報告書等において、実雇用率が法定雇用率を上回っているか（障害者雇用状況報告書又はこれに準ずる書類により確認。）。 ・障害者優先調達推進法に規定する障害者就労施設等からの物品等の調達実績があるか（契約書の写し又は注文書の写し及び納品書の写しにより確認。）。	1	5

1 技術点	220
2 価格点（技術点の配点合計の半分）	110
評価点合計	330